

ふじいでら歴史紀行

228

古市古墳群には、 墳丘の長さ

古市古墳群には、墳丘の長さ200メートルを超える大きな前方後円墳が7基もあります。巨大な前方後円墳は、古市古墳群の中でも際立つた存在として威厳を放っています。

さて、古市古墳群にはそれとは別に、小さな古墳がたくさん造られています。墳丘の長さ10メートルに満たないものもあります。古市古墳群には、もともと130基以上の古墳があったことが分かっていますが、現在地上に姿をとどめているものは45基となっています。古市古墳群の小さな古墳は、その大半が、発掘調査で濠の跡が見つかったり、埴輪が出土したなどにより、古墳が存在したことが分かったものです。

小さな古墳は、大きな前方後円墳の周囲にある陪塚と、それ以外に分けられます。

陪塚とは、大きな前方後円墳の築造に際して密接な関連を持つて造られた小さな古墳のことです。

これに対して、陪塚ではない小さな古墳は、古市古墳群の中で、大きな前方後円墳の築造に直接的な影響を受けずに造られていくように見えます。その分布を見ると、古市古墳群の中で、地域的にいくつかのまとまりを持つて造られていることが分かります。

具体的には、①藤井寺市の小山から津堂にかけての地域②藤井寺地域

③林から沢田にかけての地域④道明

寺地域⑤野中から羽曳野市の野々上にかけての地域⑥青山から羽曳野市の軽里にかけての地域といったまとまりを持っています。これらの小さな古墳のまとめを、①小山の古墳群②葛井寺の古墳群③林の古墳群④土師の里の古墳群⑤野中の古墳群⑥青山の古墳群と呼ぶことにします。

今回のシリーズでは、陪塚ではなく小さな古墳にスポットを当てます。その分布を見ると、古市古墳群の中で、地域的にいくつかのまとまりを持つて造られていることが分かります。

小さな古墳の発掘調査では、円筒埴輪とともにさまざまな形象埴輪が見つかっており、その豊かな内容は大きな古墳と比べても劣るものではありません。また、埴輪以外にも、石で作られた製品や土器などが見つかることもあります。

古市古墳群では、大きな前方後円墳を造る作業とは別に、小さな古墳を造る作業が行われていました。大きな前方後円墳は、大王のお墓として、当時の社会の力を結集して造られたと考えられています。では、今回スポットを当てる小さな古墳はどういった人々が、誰を葬るために造ったのでしょうか。

これまでの発掘調査や研究の成果から、その実像にせまってみたいと思います。

(文化財保護課 新開 義夫)



▲古市古墳群の中の小さな古墳の分布

古市古墳群の小さな古墳たち ～その実像にせまる！～

1 プロローグ